

N0.64 2011年11月21日

すてきなあなたへ

編集 佐倉市宮ノ台女性井戸端会議

発行 佐倉市宮ノ台4-26-8

Tel & Fax 043-461-7004

なぜ、私は自転車だったのか

～思い出したのは四十数年前の事件～

思い出したのである。四十数年前自転車に興味もなく体力もなく旅費もない、少々のプライドだけが無謀な自転車旅行を約束させた事を。その時は後悔した。しかし、その挑戦も今では私の大きい勲章となっている。四十数年前の6月初旬自転車部員が夏期練習の計画を立てようと集まっていた。そこで部外者の私が一言「辛い練習したってどうせ予選落ち、だったら気楽に北海道一周でもしたら」が部員を傷つけた。ある部員は「口出すな」他の部員は「道路を走るのは危険だ」「出来るものならお前がやってみせろ」とよほど悔しかったのか次々と私に噛みついてきた。自転車部とは名ばかりで万年予選落ちの弱いチーム。ある時遊び仲間の部長が私に「自転車競技は格闘技だ、怪我を恐れず相手にぶつかって行く勇気が無いと勝てない」との言葉を思い出し、気合いを入れたかったのである。怒ってしまって話し合いにならなくなった。「できるものならお前がやってみせろ」に「俺がやってやる」と言ってしまったのである。

シマッタと思ったが約束は成立。部長のアドバイスで北海道から九州一周に変更、東京から九州までも自転車で行く計画だった。いい加減な練習をして7月21日過酷な21日間の初日が始まった。早朝5時自宅を出発、順調に走り午後1時御殿場の長い登り坂とトンネルの難所にかかった。当時の御殿場付近のトンネルは無電灯で真っ暗な闇、自転車にも灯火の用意はない。歩道もない。すれすれにダンプが抜いて行く、恐怖が背筋を走る。後ろから轟音で迫ってきてフラフラしている私を追い払うかのようにクラクションを鳴らした。クラクションはトンネル内を響き渡り一瞬気が飛んだようだ。ふらついて壁に接触、転倒、轢れたと思った。ダンプがトンネルを出ていくと轟音は消えたが、闇が戻り恐怖が増幅され思うように動けない、このままでは次の車に轢かれると必死で出口に走った。トンネルの出口で放心、怪我也故障もないようだ。そこに座り込み、落ちつくのを待った。その後も毎日トラブルは続いた。それでもどうにか九州一周を終えるはずの最後の日、忘れもしない8月11日午後3時、別府港まで残り10キロの地点で乗用車と衝突、救急車で病院に運ばれ、これで九州旅行は終わった。

しかし感動もしていた。熊本の山中、ドライブインに入った。店内はトラック運転手でにぎわっていた。真っ黒に日焼けし埃まみれの私に女店員が興味津々声を掛けてきた「あんたどっから来たの」。出された水を一気に飲み干し「東京」と言って、顔、手などを洗いにトイレに入った。トイレから出てくると数人の運転手が待っていた。その一人が「あの自転車で東京から来たのか？驚いたな」と外の自転車を指さした。客や店員が私を驚嘆のまなざしで視ているのが痛いほど感じた。照れ笑いしながら

(2頁に続く)

「ええ」と答えた。「いつ東京を出たんだ」「これからどこに行く」など一通りの質問と激励が終わった。味わったことのないヒーロー感は感動と興奮をもたらした。

80才の老人が自転車で日本一周をほぼ終え自宅20キロ手前のトンネル内でダンプに轢かれ即死。平成19年NHKクローズアップ現代でこの老人が取り上げられ、この老人の人生観を紹介した。それを観て感動、四十数年前の九州旅行を思い出した。日本一周なら私にもできると本気にさせ、翌年10月に一回目の北海道旅行、この歳で4年連続、自転車での北海道旅行が出来ている。80才の老人は私の何倍もの感動を味わったのではと思うと楽になる。あの感動とヒーロー感が私の自転車の原動力になっている。「行動することで幸福感は味わえる」この歳になって悟ったのはこの言葉。

(宮ノ台 川村 健)

この夏の航空機騒音、佐倉市の空はどうなる？

～日本の空を返して欲しい～

この夏、飛行機の騒音が気になりだした。低空の爆音で、テレビの音が聞こえなくなるほどだった。これは、私だけではなく、散歩や買い物で出会ったご近所の何人かともその話になった。寝入りばなを起こされ、思わず機数を数え始めたとい男性やあまりの音と回数に市役所に電話したとい女性もいた。多いときは1時間に20機に及び3分に1機はあの轟音が頭上をかすめる。とくに、宮ノ台、ユーカリが丘、志津方面の上空に限られる。千葉市上空の騒音は、佐倉市よりもひどく、住民の抗議に千葉市長が国交省にルートと高度の変更を要請しているとの報道もあったし、軽減案も示されたらしい(『東京新聞』11月16日、17日)。しかし、こうなった経過や原因に触れている記事はみあたらなかった。

少し調べてみると、昨2010年10月21日からの羽田空港の拡張、国際化が原因だった。佐倉市の上空を通過するのは、北海道・東北方面からの羽田着陸便に限るといい、高度は天候・風向きによって異なる。北風の時は、約8000フィート(2600m)の高さで、南風の時は、約4000フィート(1300m)の低空を飛ぶ。さらに、南風悪天候のときは南・西方面からの着陸便が加わり、低空飛行の機数は通常の倍にもなる。次表の2011年5月1日の飛行実績はそれを表している。

佐倉市、千葉県、国交省に尋ねたが、佐倉市の上空を通過する飛行実績さえもすぐには分からなかった。ただ、夜の11時から朝の6時までは夜間飛行仕様の東京湾海上ルートなので、佐倉市上空は飛ばないという。「昨年10月以前と比べて、佐倉市上空を飛ぶ便数は、それほど増えたわけではないが、低空飛行が増えたのでうるさく感じるのでしょうか?！」とよそ事である。羽田にD滑走路が増設されたが、羽田への発着ルートは羽田の東部に限られる。なぜ神奈川県上空にもそのルートを分散できないのか、といえ、県や国交省は、これは、横須賀や横田基地の関係で、神奈川県上空の制空権が日本にはないからだという。国際法上の問題だからというが、要するに日米安保条約により基地も制空権も米軍が持っているということだ。飛行機騒音の原因が「米軍基地」にあることをあらためて認識した。

ウォーキングの際には、自分でも、空を見上げて数えてみた。時間帯にもよるが、30分間で、少ないときは4・5機、多いときは10機くらい確認できた。

佐倉市の担当者に、まず時間帯別の佐倉市上空を通過する機数を1日だけ調べてもらったが、しぶしぶの対応だった。いわゆる「うるささ指数」については、佐倉市の調査はないので、似たような低空飛行の市町の例で基準の70デシベル以下だといひ、

独自の調査をする気はないと。

今度は国交省羽田空港事務所に尋ねた。昨年 10 月の羽田空港拡張から 1 年間分の佐倉市上空を通過する機数を月別・天候別に、また、毎月 1 日の時間帯別の機数の調査を依頼した。以下、その報告から典型的な飛行実績をしめす月を抄出し、表とした。

日本の空は日本に返してほしい。羽田空港の管制も複雑を極めているという。安全飛行のためにも、ルートの分散化が肝要で、騒音の痛みも分散化できるはずだ。羽田の発着容量は、現在の 30.3 万回から 3 年後には 1.5 倍になるという。

羽田空港着陸便・佐倉市上空を飛行していた可能性のある機数（月別・天候別）一覧

月	天候別	合計	月合計	日	天候別	日合計	備考
2010 年 12 月	北風	2737	3551	12・1	112	112	1 日は北風で、 すべて 約 8000ft 飛行
	南風悪天	66			0		
	南風好天	741			0		
2011 年 5 月	北風	2195	3927	5・1	0	223	1 日は南風悪天 で 223 機すべて 約 4000ft の低空
	南風悪天	379			148		
	南風好天	1353			75		
2011 年 7 月	北風	1184	4345	7・1	40	131	690+2471 機が 73%で 4000ft の低空飛行
	南風悪天	690			0		
	南風好天	2471			91		
2011 年 9 月	北風	1707	4035	9・1	117	117	451+1877 機が 58%で 4000ft の低空飛行
	南風悪天	451			0		
	南風好天	1877			0		
2010 年 10 月～年 間総計	北風	29059	46379		117	117	1 年間総計で 4023+13297、37%が約 4000ft(1300m)の低空飛行であった
	南風悪天	4023					
	南風好天	13297					

注①2010 年 10 月 1 日～2011 年 9 月 30 日、毎日 6 時～22 時 59 分の 17 時間が対象で、23 時～6 時は東京湾海上ルートとなるため、この機数は含まれない

②北風：C 滑走路使用の北方面からの着陸便、佐倉市上空の北⇒南飛行、約 8000ft

南風悪天：B 滑走路使用の南方面からの着陸便、佐倉市上空の南⇒北飛行、約 4000ft

南風好天：D 滑走路使用の北方面からの着陸便、佐倉市上空の北⇒南飛行、約 4000ft

<編集後記>

★先日、『地域新聞』の取材を受けました。12 月初旬号に掲載される予定です。あらためて創刊号を眺めていますと、1998 年 1 月 15 日発行。13 年間という月日をいま思い返しています。「私たちに束ねないでください」と宮ノ台の主婦 4 人で始めたことでした。創刊 2 年目には、佐倉市から「さくら夢のまちづくりサポート事業」として助成金の交付を受けることができました。その後はもっぱらスタッフと有志の方のカンパでやり繰りしています。宮ノ台の街もずいぶんと変わりましたが、たくさんの読者、そして寄稿者、サポーターの皆さまに支えられた年月でもありました。今後ともよろしく願います。★川村さん、初めてのご寄稿です。ありがとうございます。颯爽としたツーリング姿の川村さんをお見かけしている方も多いのではないのでしょうか。★63 号放射線対策記事、野田市「0.3sv/h 以上は立入禁止」は、「0.3μsv/h」でした。μ（マイクロ）が抜けていました。訂正し、お詫び申し上げます。

菅沼正子の映画招待席 36

サラの鍵

～フランスよ、お前もか～

ベルリンの壁が崩壊しソ連邦が解体してから、タブーとされていた戦時中の蛮行・非道が次々に明らかになってくる。最近でも「白バラの祈り」(05年)「カティンの森」(07年)「縞模様のパジャマの少年」(08年)「黄色い星の子供たち」(10年)等をあげることができるが、今回の「サラの鍵」はフランスの<ヴェルディヴ事件>を題材にしたタチアナ・ド・ロネの同名のベストセラー小説の映画化。ノーベル平和賞受賞の劉暁波(リュウギョウハ)氏の獄中での愛読書だったという。<ヴェルディヴ事件>とは、ユダヤ人をアウシュヴィッツに送ったのは、ナチスドイツだけではなく、という実話である。その事実は1995年にシラク大統領が公式に認め、世界に衝撃を与えたのだが、しかし、非公式には知られていて、映画では「パリの灯は遠く」(76年)がそれを扱っている。アラン・ドロンの主演のサスペンス映画だが、監督が、アメリカのレッドパージでイギリスに亡命しヨーロッパで活躍したジョセフ・ロージーだけに、サスペンスの裏に潜む政治の不当な弾圧や人権無視の恐怖が描かれている。フランス人の美術商(A・ドロンの)が同姓同名のユダヤ人と間違えられ、アウシュヴィッツ行きの収容列車に乗せられるという物語。

ナチス占領下のフランスに、ユダヤ人排斥運動の嵐が次第に厳しさを増していた1940年代。ユダヤ人のサラ一家にフランス警察のユダヤ人一斉検挙が入ったのは1942年7月のことだった。10歳のサラ(メリュジーヌ・マヤンス)は怖がる弟をとっさに納戸に隠し鍵をかけた。「すぐ帰るわ」と約束をして。摘発された数万のユダヤ人は屋内競輪場<ヴェルディヴ>に閉じ込められる。水もトイレも食糧もない劣悪な環境下におかれ、やがて家族はバラバラにされ、それぞれ臨時収容所に分散される。最終的にはアウシュヴィッツ行きの列車に乗せられるのだ。弟が気になる一人ぼっちなサラは脱走に成功するが……。

現代。2009年。パリに住むアメリカ人ジャーナリスト、ジュリア(クリスティン・スコット・トーマス)はヴェルディヴ事件を取材している。奇しくも、自分たちが改造して住もうとしているマンションの部屋は、サラ一家の住居だったことが判明。この家は、フランス人である夫の両親がユダヤ人から取り上げた部屋だったということも分かる。

自分の身内がヴェルディヴ事件に無関係ではなかったことに衝撃を受けたジュリアは、さらに取材を進める。ホロコースト記念館で膨大な資料をチェック。サラの両親はアウシュヴィッツでの死亡が確認されたが、サラと弟の記録はない。

脱走後のサラはどうなったのか。映画は、ジュリアの取材の現代と、サラが逃亡する60年前の戦時下を交錯させて描いていく。さらに、成人してからのサラを追って、ニューヨーク、フィレンツェへと舞台は移るが、この映画のすばらしさは、単なるホロコースト映画で終わっていないことだ。過去の過ちを認め、反省し、人種の融和と人権の尊さをうたいあげている。パンドラの箱を開けたら希望がでてきた、という感動のラストシーンが用意されている。

(12月17日より、銀座テアトルシネマほか全国順次ロードショー)